

情報の集積を活かした取組を行っている事例として、マルコム(産学連携の活用)、大橋製作所(デザインの付加価値)等が挙げられる。大学等の研究機関、展示会など情報の収集、発信を活かし、近年新たな事業展開に積極的に取組んでいる。

<事例> 【株式会社マルコム(画像処理システム応用製品製造・販売)】

創業より“はんだ付け”に関する装置の開発に強みを持ち、独自の製品を生み出し続け、日本のエレクトロニクス業界の高度成長期を支えてきた。中でも、プリント基板のリフローはんだ付けの工程に欠かせない製品で圧倒的にトップシェアを占めている。

近年、新たな事業展開として、これまでエレクトロニクス業界で培った技術を活かし、異業種であるバイオテクノロジー分野への参入を進めている。

このたび、核酸(DNA・RNA)を小さな磁性ビーズに吸着させ分離抽出する技術により、核酸の抽出を短時間に全自動で行うポータブル型装置の開発に成功。研究者にとって大きな負担となっていた手作業での核酸抽出作業が大幅に軽減された。これまでの特殊専門分野のニーズだけでなく、食品製造・加工業者をはじめとする幅広い業種における波及も見込まれている。

新分野進出ということもあり、様々な課題をクリアすることは容易でなかったが、東京農工大との共同研究により多くを解決している。

東京の研究機関の集積を活かし、ニーズを発掘し、共同開発を行った結果である。

<事例> 【株式会社大橋製作所(電子部品の実装装置、精密板金加工)】

当社は小型液晶パネルや基板、ICチップなどの電子部品を実装する装置の世界的メーカー。一方、当社のもう一つの事業部門である精密板金加工の「メタル事業部」においては、仕事量が減少し、受注加工による価格競争に悩んでいた。そこで、作る側が価格設定できる自社製品の製作を模索した結果、「数楽アート」を開発し、注目を浴びている。「数楽アート」とは金属加工により、数学の2変数関数を立体グラフ化したもので、関数が示す軌跡に沿って切断した数十枚のステンレス鋼板を格子状に組み合わせたアートオブジェである。

同製品は大学の産学連携部門で紙型の立体模型を目にしたことがきっかけとなり、芸術に造詣が深い数学教育研究者、デザイナー、写真家、産業支援機関スタッフなどとの多くの出会いにより、試行錯誤の末、実現した。「答えのある美しさ」をキャッチフレーズに展示会、オンラインショップ、通販カタログでの販売の他、ギフトショー等各種展示会にも出展し、テレビ番組でも紹介されるなど、効果的に情報発信を行い、販路開拓につなげている。